

ニュースポーツ

国立花山青少年自然の家

1 活動の概要及びねらい

勝敗よりも、「楽しみ」「気晴らし」「人との交流」「健康・体力づくり」に重点を置いた生涯スポーツです。

2 時期・時間

年間・自由

3 活動場所

プレイホール・オリエンテーション室・研修室等

4 貸出物品

室内ペタンク用品一式（ボール12球、ビュット、投球サークル、メジャー）
スカットボール一式（スカット台、人工芝、ボール10球、スティック2本）
スマイルボウリング一式（ピン10本、ボール2球、ゲート、マット、腕章）
記録用紙、バインダー、鉛筆

5 実施例

- ① 健康状態を確認し、服装を点検します。
- ② 準備物の確認をします。

[室内ペタンク]

- ・ 先攻と後攻を決めます。
- ・ 先攻チームは投球サークルをセットし、ビュット（目標球）を投げる（転がす）。ビュットは投球サークルから6m～10mにあるようにします。
- ・ 先行チームがビュットにボールを近づけるように投球します。ボールを投げるときは、両足が投球サークルの中に入り、下手投げで投球します。（転がしても高く投げてもかまいません）
- ・ 後攻チームが投球します。
- ・ ビュットから遠い方のチームが投球します。一方のチームが持ちボールすべて投げ終わってしまったら、相手チームも残りのボールをすべて投げます。チーム内の投球順番は自由です。それぞれ、6球ずつ計12球のボールを投げ終わった時点で、その投球回（メーヌ）は終了となります。
- ・ 投球回（メーヌ）が終了するごとに、得点を確認します。ビュットに近いチームのボールが得点となります。
- ・ 13点先に先取したチームの勝ちとなります。30分を経過した場合（それぞれのチームが13点までいかなかった場合）は、その投球回（メーヌ）が終了した時点で得点の多いチームが勝ちとなります。

[スカットボール]

- ・ 先攻と後攻を決めます。
- ・ 先攻チームは赤球、後攻チームは白球を使います。
- ・ 先行チーム後攻チームは互にスタートラインに立ち、スティックでスカット台の穴をねらって打ちます。
- ・ 持ち球5球が全部スカット台の得点穴に入った場合は、さらに、1回分（5球）を打つことができます（パーフェクトチャンス）。その場合、得点は加算されます。
- ・ 5回戦の合計で勝敗を決めます。
- ・ 同点の場合は、各チームの代表者1名により決定戦を行います。

[スマイルボウリング]

- ・ 先攻と後攻を決めます。
- ・ 投球順を決め、投球順を示す腕章を腕につけます。（先攻は赤の腕章）
- ・ マット上のポイントにピンを10本セットし、ゲートを1にセットします。
- ・ 投球は両足を地面に固定し、（助走しないで）片手で投球します。
- ・ 投球順序の変更はできません。次のラウンドに移るときは、前のラウンドの最後に投げた人の次から投球します。
- ・ 先攻チームが投球します。（後攻チームはピンの後始末をします）
- ・ ボールは「ころがしライン」より手前で転がし、ゲートを通過させてピンを倒します。
- ・ 「ゲートを通過しない」あるいは「ゲートに接触した場合」は無効です。ピンが倒れた場合はピンを投球以前の状態に戻します。
- ・ 倒れたピンは直ちにに取り除き、10本のピン全部倒れるまでチーム全員が順番に1球ずつ投球します。
- ・ ピン10本を倒すまでの投球回数をそのラウンドの得点とします。
- ・ 1ラウンドにおいて合計投球数が20回になったら、そのラウンドの投球は終了になります。終了してもピンが残っている場合は、「20+残ったピンの数」が得点になります。
- ・ 続いて後攻チームが投球します。（先攻チームはピンの後始末をします）
- ・ 同じようにしてゲートを2～4まで投球を行います。
- ・ 各ラウンドの得点を合計し、得点の少ない方が勝者となります。

③ 人数確認、健康調査をします。

④ 後片付け。（用具は必ず元の場所に返してください）

※必ず引率者が立ち会ってください。（破損等があれば事務室にご連絡ください）

6 留意点

- ・ 試合方法を参考にして、人数やレベルに応じてルールは独自に決めてもかまいません。
- ・ 用具の取扱いはていねいをお願いします。
- ・ 用具の準備や活動は各団体で進めることを基本としますが、説明の必要があれば事務室にご相談ください。